

所信表明 平松秀一 町長

住みたくなる町日本一を目指して



平松 秀一 町長

安全・安心のまちづくり

災害発生時における防災体制の本部機能の見直しを早急に行い、あわせて全ての行政区に自主防災組織を設置していただくよう区長会と協議していきます。

高齢者の生きがいづくり

高齢者のスキルを町の運営に生かし、日々の生活を生き生きと過ごせる「社会参加型」の事業を展開したいと考えています。

子ども・子育て支援

当町の教育・児童福祉予算は全体の18%を超えており、他の市町村と比較しても力を入れていることは間違いありません。

児童福祉ならびに町独自の教育振興基本計画を時代に即した形に見直しながら対応していきます。
若い世代の関心を
30代・40代の方々に町の運営に参画してもらえよう話し合いの場をもうけ、若い人たちの提案が町政に生かされるまちづくりを行っていきたくと考えています。

町内企業を強くアピール

商工会や企業クラブと連携し、企業誘致や就職してもらおう仕組みをつくりまします。

暮らしのコミュニティの早期実現

3つの小学校区を基盤として、各小学校区で抱える諸問題を各小学校区で解決してもらおうことにより、迅速に住民サービスが行き届くシステムづくりを考えています。
これらの事業を慌てることなく、財政調整基金の改善や行財政の見直しを行いながら取り組んでいきます。

教育行政報告 安河内文彦 教育長

「つながり」を大切に「丁寧」に鍛える

平成29年度の主な取り組み

○特別支援教育の充実
本年2月に特別支援教育基本計画を策定しました。この計画に基づき、今後も特別支援学級の担任の育成などを計画的に進めます。
○小学校英語科教育
須恵第二小学校を小学校英語教育推進校に指定しました。担任が一人で授業を実践できることを目標に、小学校3校で共同の研修を行い、教員の指導・技術の向上に努めています。
○立志式の開催
中学2年生全員が将来への希望や夢、職業などについて作文を書き、



安河内 文彦 教育長

各校2名の代表が発表しました。

30年度の主な新規事業

○「つながり」を大切に「丁寧」に鍛える」教育の推進
小・中学校の交流を通して中学生の姿が模範となる取り組みを始めています。また、結果をほめるだけでなく、結果までの過程を認めることを意識した教育を推進します。
○不登校児童・生徒への対応
適応指導教室（やまももルーム）での支援をはじめ、スクールソーシャルワーカー等を含めた組織的・総合的なアプローチにより復帰を目指します。

○学力向上にむけて
学力向上検証委員会では、教科別に全国学力テストの結果を分析し、授業改善や補充学習などに取り組んでいます。今年度からは小学校3・4年生の学力補充を重点的にを行い、高学年につなげていきます。

視察研修レポート 平成30年5月10日（木）

粕屋南部消防組合 中部消防署 西出張所

粕屋町柚須・阿恵地区および志免町別府・御手洗地区では、中部消防署や南部消防署から救急出動してしました。現場到着までの時間が15分以上経過する状態が続いていたため、平成27年12月に西出張所が開設されました。現在、救急車1台、消防ポンプ車1台が配置され、救急隊3名×3交代・消防隊3名×3交代・課長1名の計19名が勤務に就いています。
これにより、現場到着までの時間が短縮されました。



福岡都市圏消防共同指令センター

平成29年11月に福岡都市圏消防共同指令センターが開設されました。

福岡都市圏の5つの消防本部にある119番指令センターが一本化されたことにより、大規模災害時における迅速な対応や119番通報集中時の受信・処理能力の向上などが期待されます。
これまでは、南部消防本部において3名×3交代の9名で指令業務を行っていました。現在は3名を共同指令センターへ派遣しています。（平成31年3月31日以降は、福岡市消防局での運用となり、職員員の派遣はありません）
この共同指令センターの設立整備費用として、粕屋南部消防本部は約4億6600万円を負担しています。
粕屋6町の住民の安心・安全が一層高まりました。



激励を受ける須恵町消防団長

- 参加する消防本部（6市8町）
- ①福岡市消防局（福岡市）
 - ②春日・大野城・那珂川消防本部（春日市、大野城市、那珂川町）
 - ③粕屋南部消防本部（宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、久山町、粕屋町）
 - ④宗像地区消防本部（宗像市、福津市）
 - ⑤粕屋北部消防本部（古賀市、新宮町）

健闘を祈る

平成30年5月24日（木）健康広場
6月3日の操法大会に向け、懸命に汗を流し訓練する須恵町消防団を激励しました。

今年、県大会の日程が早まったため、例年より約1ヶ月早い町大会となっています。
時期は早くなっても、毎年変わらず団員の気迫あふれる号令と規律ある素早い動作に、わが町を守る存在として、安心感を覚えます。
これまで培ってきた伝統ある消防団として、町・地区・県大会を突破し、3度目の全国大会への切符を勝ち取ってほしいと思います。

しかし、訓練に励む各分団の団員数が少ないように感じました。そこには、各分団ともに団員不足に悩む現状が影響しているようです。
この操法大会も、災害などいざというときに迅速な対応ができるよう行われています。

町民皆様も、なくてはならない消防団の活動に対するご理解と、新入団員の確保にご協力をお願いいたします。

6月定例会
一般質問
町長・教育長報告
委員会レポート